

安保・戦争国会粉碎へ!

2015年6月7日
No.299

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

京都大同学会選挙で作部執行部を信任!

京都大に安倍戦争政権打倒のストライキを目指す自治会執行部が誕生しました! 全学自治会同学会中央執行委員会予備選挙で「安倍政権の戦争を止めよう! 山極(総長)・杉万(副学長)体制打倒! 10月ストライキ」を訴えて立候補した作部羊平候補者団が信任をかちとりました。この選挙は、安倍の戦争政策と大学改革へ怒り高まる学生のとるべき道筋を指し示しています。

選挙は4月30日に公示され、6月5日の開票の結果、候補者団は投票総数1219票、有効投票1027票のうち560票の信任を得ました。この1ヶ月、世界情勢はますます戦争か革命かをめぐって非和解的に推移しました。安倍政権は安保関連法を閣議決定する一方、沖縄県民大会に辺野古基地建設に怒れる3万5千人が結集し、沖縄大自治会選挙も昨年を倍する信任票で成功しました。韓国ではパク・クネ政権打倒のゼネストへ民主労総が前進しています。

韓国・沖縄の闘いに日本・本土の学生がどう応えるかが問われました。作部候補者団は、反戦を闘う学生運動と学生自治会再建に変革の力があると訴えました。「なぜ安倍は『解釈改憲』という中途半端な手段をとったのか? なぜ明らかな戦争法案を『平和安全法だ』『自衛隊のリスクは増えない』と強弁するのか? それは、第二次大戦の敗北を受けた大衆の強烈な『戦争反対』の思いが労働運動・学生運動として結実する中で、容易に戦争できない力関係があるからです」「大学は現在の体制をのりこえて新しい体制をつくるために社会に開かれたところですよ」「(山極総長体制は)大学が国家に位置付けられ、戦争協力をさせられる現状になっていることに対し、何の立場も持っていない」「山極総長体制は、私たちにとっては乗り越えられるべき存在です」(候補者団ビラから)

この訴えと闘いに多くの合流が生まれました。信任560票への不信任467票は、例年に無い僅差です。新入生を中心に、候補者団の提起を現情勢と照らし合わせて真剣に吟味し決断した結果です。これ自身がストライキへ向かう重大な一歩目です。昨年までの中執の闘いを見てきた上回生、院生、自治寮生も圧倒的に投票



信任を喜ぶ作部委員長(右)、縷縷書記長(中)、大森副委員長(左)

しました。沖縄闘争に参加しゼネスト情勢を目の当たりにした1回生も選挙管理委員としてともに闘いました。

学生の決起にあわせて教員の決起も始まりました。英語クラス数の削減による人件費削減・労働強化に怒る教員は、授業前時間を投票に当てることを歓迎しました。選挙の渦中での京都市内デモも重要でした。戦争を止め新たな社会をつくる「革命の砦」として大学を奪還する意義を社会に訴え、繁華街を行進しました。

一方、当局と結託して既得権益を私物化してきた旧同学会役員は完全に鳴りを潜めました。大学当局は選挙を非公認とする公示第4号を出しましたが、逆に旧同学会役員との癒着関係を追及され大義の無さをあらわにしています。「私達は既に民主的手続きを終わらせています。大学当局に対して、私達は実力行動、つまりストライキで対峙します」(候補者団ビラより)。学生は6.15国会包囲行動へ!

すべての力を学生自治会に結集し、大学ストライキーゼネストを実現しよう!(N)

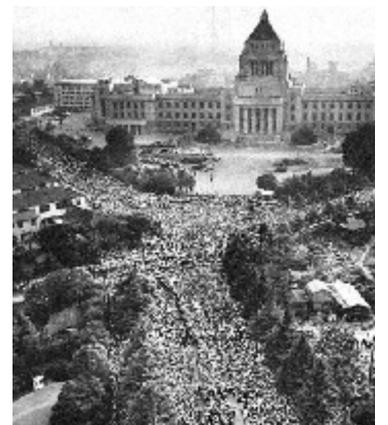
【投票結果】

投票総数	1219票
有効投票	1027票
信任	560票
不信任	467票
無効票	192票

戦争法案粉碎! 安倍たおせ!

〈6・15国会包囲大闘争〉

- 6月15日(月) 9時～ 議員会館前で座り込み開始
- 12時～13時 霞ヶ関デモ(11時45分に日比谷公園霞門集合)
- 15時半～16時 文部科学省へ申し入れ行動
- 16時半～17時半 議員会館前で国会への抗議集会
- 18時半～ 全国学生集会(参議院議員会館101号室)



今こそ革命が必要だ! 6・15国会デモへ!

全学連書記長・坂野陽平(上智大学)

今から55年前の1960年6月15日、「安保粉碎! 岸打倒!」を掲げ10万人のデモ隊が国会を包囲。全国でも580万人が立ち上がった。「われとわが手で戦争を止める、岸政権を倒す」と誓った全学連の行動は国会構内突入の実力闘争に発展した。それは命がけの闘いだっただ。この中で東大生・樺美智子さんが機動隊に虐殺された。再びの戦争への道を阻むべく、自らの命も省みず立ち上がる学生の姿は全米衆の魂を揺さぶり、「6・15」を前後して労働者数百万人が参加する3波の政治ストライキが爆発する。全学連を最後に実力闘争に駆り立てたのは、軍事独裁政権下の韓国・イスンマン大統領打倒の「4・19学生革命」への連帯だった。

戦後70年、全存在をかけ戦争を阻んできた日本労働者民衆の闘いの歴史を引き継ぎ、全学連は6月15日に国会デモに立つ。「今の学生は政治的行動には立ち上がらない」——この憎むべき「神話」に終止符を打つ時は今だ!

安倍は戦争法案を8月までに成立させ、侵略戦争の正当化と総翼賛体制構築を狙う「戦後70年談話」を発しようとしている。来年の参院選後から改憲国民投票を数回行い、憲法9条の破棄を狙っている。「戦後レジームからの脱却」と称する「新たな戦前」の到来に際し、全学連は「護憲」や「立憲」ではなく、革命を対置する。

沖縄では5月17日、3万5千人が「辺野古新基地絶対反対!」の声を上げた。なぜ沖縄の人々は基地・戦争にかたくなに反対するのか? それは「軍隊は住民を守らない」「国家は国民を守らない」という真理が記憶と肉体に刻み込まれているからだ。「3人に1人の命が奪われた」と言われるかつての沖縄戦の裏で、例えば財閥・三井系企業は戦争を通して総資産を1億円(41年)→3億円(45年)に膨らませている。

戦争とは何か? 「国の存立を守る」とは何か? 一握りの大資本が市場を強奪し、労働者の反乱を圧殺することに他ならない。この真実を押し隠す安倍は絶対に許せない。「平和安全法制整備法」「国際平和支援法」——それは「東洋平和」を語り侵略戦争を行ったかつての帝国主義者の姿そのものだ。そもそも、戦後の「平和憲法」と沖縄米軍基地に象徴される日米安保体制は裏表の関係だ。朝鮮戦争、ベトナム戦争をはじめ絶えざる戦争。「銃剣とブルドー



ザー」による土地収用・基地建設。戦後日本は「平和国家」などではなく、まぎれもなく戦前の帝国主義の延長にある。戦後日本の出発点である、「戦争放棄」「軍備不保持」をうたった憲法9条はアメリカ帝国主義に「押しつけられた」ものでもなければ、「戦後日本の無条件の平和」を約束するものでもない。憲法9条とは、2千万のアジア人民—320万の日本人民の命が奪われる中、「戦後革命」で刻み込まれた日本の労働者民衆の怒りと闘いの証であり、かつ「革命回避のための譲歩」として日米支配階級が繰り出した苦渋の選択の産物だった。

「戦後」とは、「戦争か革命か」の歴史選択をめぐる一貫したせめぎ合いだ。中東、ウクライナ、東アジアの3正面で三たびの世界戦争が始まろうとする今日、この歴史選択が全世界60億民衆に迫られている。今こそ革命が必要だ。労働者と一体でゼネラル・ストライキに立ち上ろう。韓国・民主労総をはじめ「自国政府打倒」で闘う労働者との国際連帯をつくろう。「日本が侵略されたらどうするか」——この排外主義宣伝をのりこえる実践が開始されている。世界史的選択としての革命は東アジアから開始される。「軍服を着た労働者」=兵士も決起し、侵略の銃を捨てて「本当の敵」に立ち向かう。

戦争・安保国会に対し、必ず学生の根底的決起が始まる。日本はゼネスト情勢だ。「戦争反対」と「生きるための闘い」は一つのものである。この間、東大をはじめ3大学が米軍から資金提供を受け、軍事研究に関与していたことが判明した(東京新聞6・3付)。学生自治会のもとに団結して全国大学ストライキに立ち上がる中で、大学・学問を根本的に変革しよう。戦争・安保国会の6~8月の過程は、学生の「就活」の真っ只中だ。そこでは何が行われているか? 100社以上に応募し、多ければ7~8次の面接。追い込まれるほど学生は自らを従順な「人材」として資本に従属させなければならない。しかも、不採用なら「お祈りメール」一通でお払い箱だ。学生を縛る「学費・就活・奨学金」の鎖。「生きるため」に大資本・国家に従属せざるをえない現実。このありふれた日常にこそ、学生を戦争に動員する論理が貫かれている。

6月のギリシャ財政破綻で世界大恐慌が深まる中、アベノミクスは一挙に崩壊する。ギリシャのように、日本でもゼネストが本格化する。全世界の労働者民衆の怒りを一身に体現し6・15国会包囲へ立ち上がろう!

【当面する行動方針】

○韓国・民主労総ゼネスト連帯! 6・28集会

6月28日(日) 13時半~ 東京・江戸川区総合文化センター大ホールにて

○武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判・第10回=判決

6月29日(月) 11時~ 東京地裁419号法廷にて ※傍聴券配布のため、10時半までに裁判所入口脇に集合してください。

○安倍をとともに倒そう! 7・5大集会

~「7・1 集团的自衛権閣議決定」一周年 改憲・戦争・原発・首切りのABE TAOSE!~

7月5日(日) 13時~ 東京・ニッショーホール(消防会館2F)にて

【主催】許すな改憲! 大行動(改憲・戦争・原発・貧困許さない大行動 <http://yurusunakaiken.com/>)

